

平成27年度 第1回弘前市立博物館協議会会議録（要旨）

日時 平成27年9月15日（火） 午後1時35分開始 午後2時54分終了
場所 弘前市民会館 管理棟2階 第二小会議室
出席者 委員長 小嶋 義憲 委員 葛西 敏
委員 北原かな子 委員 武井 紀子
委員 福井 修 委員 古川 寿伯 （6名）
欠席者 副委員長 島内 智秋 委員 須藤 廣志
委員 山本 和之 委員 出 佳奈子 （4名）
事務局 館長 長谷川 成一 館長補佐 竹内 勇造

会議次第

- 1 開会
 - 2 委員長挨拶
 - 3 議事
 - (1) 平成26年度事業報告について
 - (2) 平成27年度事業経過報告について
 - (3) 平成27年度資料収集状況について
 - (4) その他
 - 4 閉会
-

事務局 ただいまから、平成27年度第1回弘前市立博物館協議会を開催します。はじめに、委員長からごあいさつをお願いします。

委員長 先般佐野ぬい展を見たが、市民待望の企画展であったと思う。作品の中には、佐野先生のコメントが付いているものがあり、一番気に入ったのは「青は、私にとって麻醉だ。」で、とてもいい言葉だと思った。佐野先生の作品の色彩のハーモニーや美しさに心癒される感じがした。会場は随分盛況でした。

また、館長講話も大変好評で、市民の博物館に対する期待や関心の大きさを感じている。それだけに、この会議の責任も大きい。

事務局 ありがとうございます。次に、会議の議長は、市立博物館管理運営規則第3条第2項により委員長がつとめることになっていますので委員長、議事進行をお願いします。

議長（委員長） 本日の出席者は10名中6名で過半数ですので、会議は成立します。直ちに案件の審議に入りますが、議事の進行についてご協力をよろしくをお願いします。

まず、案件の（1）平成26年度事業報告について、事務局から説明をお願いします。

【配付資料に基づき、平成26年度事業報告について、事務局説明】

議長 なにか質問や意見がありましたら、お願いします。

委員 新和中学校での職業人講話は非常によいことだ。私の職場では、高校生などをインターンシップとして引き受けているが、子どもたちにはその職業に就きたいと思うきっかけになる場合がある。学校の先輩が教えるのはいいことだ。ぜひ続けてほしい。

議長 学芸員は3名いますか。

事務局 現在はそうです。(館長を入れると4名。)

議長 博物館の学芸員や図書館の司書の場合、異動しにくいとか、また、図書館の場合、専門の司書が異動でいなくなって利用者が利用しにくいとか聞く。弘前市も異動に対応できるような態勢が必要かなと思う。

委員 3名の学芸員の専門分野を教えてください。

事務局 三上幸子学芸員と棟方隆仁学芸員は歴史、三上美樹学芸員は美術です。

事務局 三上学芸員及び棟方学芸員は、大学で日本史を学んだので歴史系の学芸員だが、展覧会を担当する際には美術・民俗等も担当する。三上美樹学芸員は、弘前大学の美術史のゼミを終えているが、10年以上博物館以外の分野、部署で仕事をしてきているので、いきなり美術の展覧会を担当できるかといえば、経験がないとできない。現在、学芸関係を手伝いつつ、庶務もしている。展示を担当できるように徐々に訓練中。

委員 学芸員は多い方がいいと思うので、弘前大学に博物館学の講座があればもっと資格を取れる人がふえると思う。

事務局 弘前大学で学芸員資格を取得できます。

議長 次に案件の(2)平成27年度事業経過報告について、事務局から説明をお願いします。

【配付資料に基づき、平成27年度事業経過報告について、事務局説明】

議長 質問、意見はありますか。

委員 昨年度の事業報告の説明の中で、「名画の花束」展のときに、小・中学生を市議会バスで送迎したと聞いたが、今年度もバス送迎をした展覧会はあるか。

事務局 「名画の花束」展は、市長肝いりの展覧会であったことから、当館としても観覧者数をふやす努力がいつもよりも必要とされたという事情がある。議会の方でもバスをあまり使っていない時期だったので、あいている日のバスを確保して、できるだけ遠方の学校を優先して来館してもらった。今年度は議会バスを使った、または使う予定の展覧会はない。

委員 遠い地区の小・中学生の場合、親に関心がないとなかなか博物館と一緒に来ることができないということもあると思うので、もっと議会バスの利用をやらせると博物館へ興味を持ってもらえると思う。

議長 遠方の小規模校はなかなかすぐれた美術等に接する機会がないと思うので、できるだけ機会があったら市議会バスの利用をやってほしい。

委員 先ほどの遠方の小・中学生の話ですが、私むかしピアノを弾いていたので、遠方の学校に演奏をしに行ったときに、児童・生徒だけでなく、なかなか聴きに来ることができない父母なども来ていた。なかなか動きが取れない遠方の住民にとっては、学校でのイベントが手近に接することができる機会なので、バスを使うときに、音楽鑑賞

教室などと博物館の展覧会とをタイアップさせて実施してほしい。

議長 大賛成。学校で次年度の計画を作る時期に合わせて、博物館の次年度の展覧会計画ができたときに学校へ働きかけることが必要と思う。

事務局 中学校の催しが市民会館で行われるとき、博物館にも見学に来てほしいということ館長が学校の校長に呼びかけている。

事務局 委員長のおっしゃるとおりだが、博物館の年間展覧会案内ができた時点で各学校へセールスに行けると一番よい。しかし、年間展覧会計画は議会で次年度予算が承認される3月20日頃を過ぎないと公表できない。その頃には、次年度の学校行事が既に決まっている。現状は決まった学校行事の中に博物館の展覧会の鑑賞を入れてもらうことになり、かなり無理がある。学校の行事計画の時期、博物館の展覧会計画の時期に無理があり、現状は職員の努力で博物館に来ていただいている。

もう一つ鑑賞教室の件について、青森県立郷土館で学校向けにやっている出前授業などを、当館としてもやりたいが、いまの陣容、マンパワーではできない。

委員 市議会のバスは何人乗りか。

事務局 33人です。

委員 学校によっては使い切れない場合もあるのでは。

事務局 2往復使用などしていただいた。

委員 セレクトするのはどうかたちで。

事務局 市議会バスのあいている日程を学校に示して、基本的に早い申し込みの順で日程を埋めていった。最初遠方の学校に通知して、埋まらなかった日程についてはその次に遠い学校へと順々に通知・PRして行って、バスを使ってもらったようにした。

事務局 小規模校については、誘い合わせて来てもらうこともした。

委員 博物館のマンパワーの問題があって、出かけて行くのは難しいので、市議会バス利用の際に、学校と連携を取って、子どもだけでなく父母・祖父母も乗ってもらえたら、こんなによい展覧会をやっているのだから、観てもらえばいいのではないか。

事務局 保護者に関わる点で、果たして学校でそこまでやってくれるのかという問題もあるので検討させてほしい。

議長 確かに学校現場では4月には行事で埋まっている。しかし、案外融通がきく行事もある。校長会にこういう件もぜひPRしてください。

事務局 展覧会の方のPRは各校へ毎回やっている。小・中学校長会議において、各校長にはチラシ等を配付して、くどいほどPRしている。今回の「こども博物館」は、市内の全小・中学生にチラシを配付している。親子鑑賞会の保護者も無料になる点もPRしている。展覧会を見た方の口コミの効果は大きいと思うので、委員の皆様にも宣伝のご協力をお願いします。

議長 学校はかなりの名画や彫刻等を持っています。各学校でどれだけのモノがあるのか、実態を把握して、その中で特に貴重なモノについてはリストアップして、博物館で活用することが必要ではないか。検討をお願いします。

事務局 了解しました。

議長 次に案件の（３）平成２７年度資料収集状況について、事務局から説明をお願いします。

【配付資料に基づき、平成２７年度資料収集状況について、事務局説明】

議長 質問や意見はありますか。

委員 購入資料の予算はいくらか。

事務局 前年度に購入予算を要求して認められて、その予算で購入している。

委員 補正予算か。

事務局 小柳吉次氏の作品については、既に購入計画があったものであり、要求が認められた既決予算で購入している。

委員 博物館の収蔵庫には、あとどのくらい空きスペースがあるか。

事務局 既にパンクと言ってよい状態。

委員 今後寄贈等について、どのように取り扱うか。

事務局 庫内のスペースをさらに整理して、木製の棚を金属製の省スペースの棚に替えるなどして、収納スペースを作る工夫をして、収納していきたい。

議長 次に案件の（４）その他について、事務局から説明をお願いします。

【会議資料とは別に配付した各資料に基づき、事務局が説明】

事務局 昨年度の博物館協議会で出された宿題について、簡単に報告する。

１番目は、多言語化への対応について。今年度から、館内の案内板については、英語、中国語（簡体字）、ハングルで表記している。英訳付きのキャプションについては、われわれの能力を超えており、解釈も入るので、さらに検討していくとともに、委員の先生方やご紹介いただいたかたにお願いするしかないだろうと考えている。当館にとっては難易度が高く、かつ、経費的にも可能かどうかという問題も抱えている。

２番目は、収蔵資料の公開について。平成８年３月に当館で刊行した『資料目録Ⅱ』の内容を、今年６月に当館ホームページ上に公開した。Ⅱは歴史史料であり、比較的公開しやすかった。『資料目録Ⅰ』は、学芸員から遺漏が多いという話があり、整備・確認してから公開していきたい。今後も段階的な目録の公開を計画している。

３番目は、ニュースレター等での情報発信について。教育政策課から提案があり、広聴広報課で広報ひろさきにスペースを提供してくれることとなり、今年６月からの偶数月の１日号に「ようこそ！ヒロハクへ～館長の博物館レポート～」が掲載されている。また、館長講話の配付資料や講話の音声を、ホームページ上で紹介していく予定。学芸員のギャラリートークについても、概要をホームページで紹介していく予定。

４番目は、研究紀要の発行について。学芸部門の体制が整っていないため、現状では発行は難しい。今日配付した「郷土歴史シリーズ」の『津軽信政』は、常設展をリニューアルした場合に展示図録の刊行を計画しており、これは図録の分冊というべきもの。また、「館蔵品紹介」は、職員自身の自分の館にどんな資料があるのかの認識と研究のために刊行している。綴じ穴を開けてあり、市民等が次々と綴じていって、資料の解説を見ることができるものとなる。年度末に予算に余裕があれば、No. 1・No.

2の増刷、No.4・No.5の刊行をしたい。「郷土歴史シリーズ」も第2冊として『(仮題)城下町のおひなまつり』の刊行を計画している。以上のように、われわれなりに博物館の基盤となる歩みをしているところである。

議長 皆さんから、意見、感想などどうぞ。

委員 早速、博物館のホームページの収蔵資料のところを見てみたが、いいと思う。

事務局 それから、津軽為信の缶バッジについては、夏休み親子ナイトミュージアム探検のときに、参加した子どもたちにプレゼントしたし、開催中の「こども博物館」では、来館した児童・生徒全員に差し上げることにしている。

委員 これは為信で終わりですか。

事務局 できれば、来年は2代信枚を。そうすれば、このシリーズは12年はやれる。

委員 郷土歴史シリーズ『津軽信政』は、博物館後援会の刊行であるが、体裁が福岡市博物館のものとそっくり。福岡市の場合は、金印が第1回目で、知名度では勝てないが、内容が散漫であった。内容的には津軽信政の方がやさしく、かつしっとりとした城下町の品格が感じられていい。

議長 委員の方からほかに何かありますか。なければ、以上で議事を終了します。ご協力ありがとうございました。

事務局 長時間に渡ってありがとうございました。なお、本日の会議の会議録については、まとめしだい、昨年分と同様に、市ホームページの附属機関のページに掲載しますので、ご承知置きください。これをもちまして、平成27年度第1回弘前市立博物館協議会を終了させていただきます。